

新しくまちづくりの挑戦

いよいよ本四3架橋時代が到来！！

『悪戦苦闘の南国市』

次の時代に残せるか、個性いっばいの人気都市』
 ごめん町周辺の整備計画は、7つの事業が実施されることにより実現します。その中には、ごめん町再開発、吾岡山文化の森や阿佐線整備、JR駅前と大塚の区画整理事業などが含まれています。
 交通拠点都市として、その期待に応え物部川流域の巨大な購買力を呼び込めるのか？ いま正念場！ 歯を食いしばって、ここ10年悪戦苦闘の「まちづくり」に挑戦します。



ごめん町周辺整備計画イメージ図

ごめん町駅周辺は、県東部地域・物部川流域の「人・物」の交流の始まる導入部となります。
 阿佐線開通後は、一日平均千五百人程度の乗客数が見込まれています。

周辺の交通整備計画とまちづくりのポイント

▼右のイメージ図は、未来の「ごめん町とその周辺が整備された場合を北東の方向から見たものです。市民の協力と価値ある投資によってにぎわいのある、知的刺激のある、交流のある、質の高い都市空間の整備を推進しよう」と計画しています。
 新本町は着工しました。阿佐線の高架化にもメドがたらず、高知南国線の二十七号道路も目に見えてきました。吾岡山文化の森公園の整備も進んでいます。再開免ビルへの取り組みも充実してきました。
 限らない未来を予見しながら努力と実践を重ね、南国市のまちづくりは進みます。

▼幅員二十二メートルの高規格道路(自動車専用道路)が、県東部安芸方面から高知空港インターチェンジ(仮称)へ、さらに西に伊達野を通り山を越えて高知南インターチェンジ(仮称)、高知新港を臨みます。ついで高知市の東部を北に抜け、高知ジャンクション(仮称)に合流します。空港・新港の「人と物」の流通を加速させ、高規格道路からの県内外のおう盛な消費需要と夢を運ぶことになりま。

これらの新しい現象をどう呼び込み対応するか？
 その条件整備のポイントは、連結する道路の整備と魅力ある都市空間の創設、さらには周辺の文化の振興、地場産業とりわけ商業活動の活性化と若者の定住が重要な課題となります。
 「個性のある」「人の交流が活発になる」そのようなまちづくりが強く期待されています。
 南国市は、二十一世紀を素晴らしい時代にするために悪戦苦闘しながら、新しいまちづくりに挑戦します。



南国市周辺の交通整備予想図